

エピローグ

大人になるということ

学生と社会人の違いは三つある。第一は、「学ぶ」と「仕事をする（成果を出す）」という違いである。「学ぶ」とは誰かから教わることであり、受け身の状態に身を置くことである。また、一人の学習であって、その成果が他の人に及ぶことはない。加えて、学生の関わる人は、親族を除けば先輩・同輩・後輩及び教員という範囲に限られて狭い。

一方、「仕事をする」とは主体的・能動的に取り組むことであり、上司の指導は支援・援助に過ぎない。然も、仕事は組織で行うものであるから、一人の仕事の遅れが職場全体に影響を及ぼすことになる。また、関わる人は、顧客・取引先・上司・同僚など年齢や立場が多様であり、その範囲は広くなる。

第二は、「払う」と「貰う」の違いである。学生は授業料を“払う”立場にあり、その授業料は全員同じ額である。一方、社会人は給料を“貰う”立場にあり、仕事の成果や技量あるいは年数などによって、その額は異なる。

第三は、「自由な時間」と「拘束された時間」の違いである。学生は自己都合によって時間を決められ、授業をさぼってもペナルティはない。また、春休みや夏休みなど長期の休みがある。一方、社会人は勤務時間を守らねばならないし、有給休暇は上司の了解を得なければならないなど、自分の都合通りにはならない。また、基本的には一斉の長期休暇はない。

学生とは子供であり、社会的責任を猶予された状態に身を置いている。したがって、家庭や学校という場で「大人になるための訓練」を受ける。そこでは、周囲の大人が社会に出て必要となる知識や態度を教えてくれ、また、事細かく注意をしてくれる。一方、社会人はある種の拘束の中で仕事をして生活の糧を得るとともに、社会生活をしていかねばならない。大人であることを前提として、「大人の完成を目指す」存在であるから、大人の振舞いが出来ないと相手にしてもらえない。